

広報いいで

2

9, February
2012
Vol.1019



ここで音楽を磨いてきました
今日は床を磨きます

1月28日に行われた町民総合センター「あ〜す」大掃除にボランティアで参加して下さった皆さん

- 03 特集◎いいで人語り
- 04 東部地区除雪隊
- 06 保護司・長岡米次さん
- 08 山村留学生・野口龍太さん
- 10 まちかどNEWS
ニューイヤースペシャルコンサート／飯豊町の冬を楽しむツアー／町議会報告会／どんでん平スノーパーク開業ほか
- 12 直伝おふくろの味
- 13 子育てファイル／あ～す図書室情報
- 14 100歳おめでとうございます／なかつがわ農家民宿組合山形県ベストアグリ賞受賞／がんばりの軌跡
- 15 手塚娃子さん山形県自作視聴覚教材コンクール最優秀受賞／緑のふるさと協力隊通信
- 16 ようこそ！わたしたちの倶楽部に／町長の見て歩き
- 17 健康ikiiki
- 18 お知らせ／戸籍の窓／人の動き／編集後記
- 20 町宝いいで～大福寺山門～

町のホームページから さらに情報を！

町からのお知らせや情報は飯豊町ホームページにも掲載しています。
大きなアイコンとすっきりしたデザインで、だれでも見やすく、欲しい情報が簡単にさがすことができるように工夫されています。
どうぞアクセスし、生活情報に役立ててください。



www.town.iide.yamagata.jp



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合

飯豊町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。これからも美しい景観と里山文化に磨きをかけていきます。

今月の 表紙

感謝の気持ちを込めて 「あ～す」大掃除



図書室で清掃に励む参加者の皆さん

1月28日、町民総合センター「あ～す」で、毎年恒例の大掃除が行われました。「あ～す」を拠点に活動する10団体から約70人がボランティアとして参加。多目的ホールやロビー、図書室など全室を手分けし、隅々まで丁寧な作業で1年のほこりを落としました。参加者からは「日ごろの感謝の気持ちを込めて清掃しました。これからも気持ちよく使えんと思います」との声が聞かれました。

絆

Brilliant Person Story



特集

いいで人語り

「絆」をキーワードに町でがんばる人の姿を追う

「絆」とは、人と人との断つことのできないつながり、離れがたい結びつき（三省堂・大辞林）。

「無縁社会」という造語も生まれた現代社会において絆は日本再生のための合言葉となっています。

私たちの町にも、絆を大切にしている人たちがいます。特集「いいで人語り」は、絆をキーワードに、そんな人たちの姿取材しました。

絆

Brilliant Person Story

Vol.1 Tobuchiku-josetsutai

東 部 地 区 除 雪 隊

降雪時に出動。除雪弱者の生活を守る地域の有志たち

雪国では、宅地内の除雪はその世帯で行うのが定め。しかし、中には高齢者だけの世帯であったり、体が不自由で日々の除雪が困難な人たちが多く存在している実情がある。東部地区除雪隊は、そんな人たちに手を差し伸べる有志たちの集まり。地域の絆が隊員を突き動かす。



東部地区除雪隊©2006年12月結成。加藤富夫隊長以下、添川・松原地区の有志23名が所属。地区内の高齢者・障がい者世帯を主に、玄関から隣接道までの宅道除雪を行う。そのほか町からの依頼を受け、町道の防雪柵の設置・収納も行っている



除雪車の運転は加藤隊長自らが行う。結成時から使い続けている除雪車は30馬力。稼働時間は600時間に達する

同年代の仲間で結成

比較的穏やかな天候に恵まれた平成24年の年初め。

「お正月には、どの隊員もそれぞれに都合があるから、休めて良かったと思う」

東部地区除雪隊の隊長加藤富夫さんはそう言って目を細めた。直前の年末まで雪は降り続け、例年を越える積雪量を町内で記録。その間、除雪隊は、休むことなく高齢者世帯など除雪弱者のために、町から貸与を受けている1台の除雪車をフル稼働し続けた。

隊員数は総勢23名。農家と会社勤めを引退した55歳から65歳の人が多くを占める。

平成18年の結成当時、町には大型の除雪車しかなく、道幅の狭い町道が多く存在する東部地区では、地域住民が望むところまで除雪に至ることができなかつた。そこで町では、一つの案を部落長などを通して打診する。それは、一人乗り用の小型除雪機を貸与し、地域住民の手で除雪作業に当たるといったもの。その話は加藤さんのもたに行き着き、中心的役割を果たすこととなった。加藤さんは、早速仲間集めに奔走する。

「消防団や農協青年部と一緒に汗水を流してきた同年代にまず声をかけたら、みんな快く引き受けてくれた」と加藤さんは振り返り、地域の結束の強さを感じたという。

除雪弱者への支援

やがて町の除雪車の整備が進んだことで、除雪隊は町道除雪の役割を離れる。そして次にシフトしたのは、地域内の除雪弱者への支援だった。

今冬は、東部地区6集落の29世帯を除雪する。高齢者世帯をはじめ、障がい者世帯、施設に同居しているため空き家となった世帯、そして東日本大震災で福島県から避難されている1世帯も含まれる。

どれも部落長や民生委員・児童委員を通して依頼を受けた世帯。実情として、年々その数は増えてきているという。作業は、日にちごとに割り当てられた隊員2名で行う。除雪機オペレーターと誘導員の役割を担い、午前8時半からおよそ午後1時までの間に全世帯を回る。「町の除雪車が稼働したとき」が出動の基準だ。除雪する範囲は、玄関先から隣接道までの宅道。買い物や通院など生活に支障が



除雪作業は除雪機オペレーターと誘導係の2人体制で実施。事故を起こさないことを最優先に掲げる



左から隊長の加藤富夫さん(添川)、副隊長の遠藤善夫さん(同)、事務局の高橋正章さん(同)

仲間を大切に思いやりながら活動してきた。それが長く続けられた理由。

ないようしつかりと除雪する。恐れるのは作業中の事故やけが。除雪中よりも公道での移動の間の方が注意を要するという。スピードが出ない除雪車を誘導員の軽トラックがゆっくりと後をつける。そこへ先を急ぐ後続車の追い越しが、吹雪で視界の悪い日には肝を冷やす。

「誘導員の車に回転灯や除雪作業中とわかる標識をつけるなど、町と相談し、さらなる安全対策を図りたい」と加藤さんは知恵を絞る。

除雪隊の仕事はそれだけにとどまらず、町道の防雪柵設置・収納の仕事も行っている。およそ3・5メートルの高さがある防雪柵。一部には、上り下りしながら重い鉄板を取り付ける重労働を強いるものもある。担う防雪柵は地区内の4箇所。総延長は1・5キロにも及ぶ。

「維持管理には当然経費がかかる。地域で要望した防雪柵ならば、少しでも町に負担がかからないよう、自分たちでできることを考えて、行動に移した」と加藤さんは話す。

恩返し的气持ちを込めて

豪雪時には自分の家の除雪

だけで手一杯の中、隊員はなぜ6年間にわたり活動を続けることができたのか。副隊長の遠藤善夫さんは打ち明ける。「無理のある活動はしない。隊員に仕事を強要させない。それらを心がけ、長年の仲間を大切に思いやりながら活動してきた。だから誰一人この活動をやめようなんていう人もなく、ずっと続いてきたのだと思います」

除雪隊が来ると、雪の降りしきる外へ出て、深々と頭を下げ、お礼を言う除雪弱者の人たち。一服のお茶とお菓子を準備して待っている家もあるという。事務局を担当する高橋正章さんは話す。

「除雪を始める前に、かならず玄関を開けて家の人に声をかけてから始めるようにしています。高齢者宅が多いので、『元氣だが?』って。返事が返ってくると、自分たちも安心をもらえます」

「ほとんどが、自分たちが若いころにお世話になった人たちばかり。その恩返しの意味もあります」と加藤さんは付け加える。

地域の絆から結成された東部地区除雪隊。雪深い町が育んだ太い絆がそこにはあった。

絆

Brilliant Person Story

Vol.2 N a g a o k a Y o n e j i

保護司 長岡米次さん

20年にわたり犯罪・非行をした人の社会復帰を支援

罪を犯した人が更生し、再び社会の一員となる手助けをするのが保護司の職務。長岡米次さん(中)は、「心からの対話」を大切にして約20年にわたりその職責を果たしてきた。社会復帰を目指す人たちの姿を見てきた中で、あらためて家庭の絆の大切さを訴える。



町内の保護司の皆さんと共に「社会を明るくする運動メッセージ」を後藤町長に伝達する長岡さん

ながおか・よねじ◎1937年生まれ。92年保護司に委嘱される。04年西置賜地区保護司会理事就任。07年飯豊分会会長就任。08年西置賜地区保護司会副会長就任。そのほかJ A山形おきたま理事などを歴任し多方面で活躍。趣味は米・野菜作り。中在住

苦勞の経験^{を糧}にして

長岡米次さんは苦勞人だ。団体職員を経て、32歳の若さで電子部品の会社を設立した。最盛期には110人ももの従業員を抱える会社に急成長。しかし東京に本社を置く親会社の経営不振を受け、起業からおよそ10年で多額の負債を抱えて倒産を余儀なくされた。長岡さんは、その辛い時期を耐え忍び乗り越えたことを一つの誇りとしている。

「負債の返済で苦しい生活が続きました。しかし、『お前を信じる』と言って、どん底にある中でも融資してくれた方もいたのです。社会には支えてくれる人が必ずいるのだと感じました」

犯した罪を悔やみ、人生を立ち直そうとする人に、保護司である長岡さんは語りかける。「人と人とのつながりを大切にすれば、手助けしてくれる人がきつと現れる」と。

長岡さんが保護司になったのは54歳のとき。生活によくやく落ち着きを取り戻したころだった。当時の飯豊地区の長を務める保護司から「保護司に欠員が出る。後任になって欲しい」という要請が舞い

込む。「学力のない自分には無理だ」と初めは断った。しかし、自宅に再訪されて熱心に請われると「社会に役立つことがあればやるべきだ」と心境が変わり、引き受けることにした。

保護司の仕事

現在、西置賜地区に50人、町内には8人の保護司が活躍している。法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員だが、実質はほとんど無報酬に近い民間ボランティアだ。その大きな仕事の一つとして「保護観察」がある。犯罪や非行をした人に対して、更生を図るための指導をし、生活上の助言や就労の支援などを行う。「生活環境調査」は、少年院や刑務所に収容されている人が保釈後にスムーズに社会復帰を果たせるよう、定住先の調査、引受人との話し合い、就職先の確保などを行う。さらに保護司には3カ月に1度開催される「定例研修」への積極的な参加も求められ、管内の犯罪の現状や法律全般、犯罪者への処遇方法などを学ぶ。

約20年間に長岡さんが担当したのは、これまでに8人。



昨年9月30日、保護司としての長年の功績が称えられ法務大臣表彰を受賞された

夫婦仲むつまじく、 家庭円満であれば、 子どもは非行に走らない。

犯した罪は交通事故や窃盗、シンナー吸入などさまざま。また、18歳未満の少年はそのうち3人いた。

「保護観察対象者が、毎朝4時半に家を訪ねてきては、朝ごはんをせびられたこともありました。妻をはじめ、家族にはかなり苦勞をかけた」と長岡さんは苦笑いする。

長岡さんが大切にしているのは、「心を通わせた対話」だ。どんな罪であろうと、まずは一人の社会人として接し、悩みをすくい取ろうと心がける。保護観察中、保護司は月に1度面談し、状況を保護観察所に報告する責務を負う。保護観察の期間は罪の重さによって異なり、長いものでは10年に及ぶこともあるという。

仕事に就くことの大切さ

担当したある少年は、少年院からの釈放後、自らの足で仕事を探して就職し、結婚。子どもを授かり幸せな家庭を築いた。「あのときは本当にお世話になりました」と家族の人は長岡さんに会うたびに何度も感謝を伝えるという。長岡さんにとってその言葉は大きな励みだ。

「多くが少年のよううま

く社会復帰できるとはかぎらない」と長岡さんは言う。

「今、働き先が極端に少なくなっているのが問題となっています。職に就けないと、不安定さから再び罪を犯してしまうこともあるのです」

更生のために仕事がいかに大切かを長岡さんは説く。

町内における青少年の非行の件数は、長岡さんが保護司になった当時に比べて、少なくなつたという。単純に、子どもの数が減少したからなのか。長岡さんが最近気にかけているのは、家庭事情の変化だ。離婚件数の増加である。

「保護司としていろんな家庭を見してきましたが、経済的に貧しくても、夫婦仲むつまじく、家庭円満であれば、子どもは決して非行には走りません。家族の絆がしっかりしていることこそが犯罪防止に大切なんです」

誠心誠意を持って保護司の職務を全うする長岡さん。その功績が認められ、昨年9月には法務大臣表彰を受けた。「中学生と小学生の孫から『じいちゃん素晴らしいね』とほめてもらった」と長岡さんははにかみ、優しいおじいちゃんの素顔をのぞかせる。

「残りの任期を最後まで精一杯務めあげたい」と話す長岡さん。保護司としての責任感が大きい

絆

Brilliant Person Story

Vol.3 Noguchi Ryuta

山村留学生 野口龍太さん

都会の親元を離れ、2年間にわたり中津川で勉学に励む

授業を真剣に受ける態度を身につけたい——。中学2年の春から都会の親元を離れ、中津川中学校に山村留学した野口龍太さん。留学生生活を1年間延長し、中津川で受験勉強に励む。学校や地域の人たちと培われた絆を胸に、間もなく卒業のときを迎えようとしている



野口さんを囲む中津川中学校の後輩たち。さらに1年間の留学延長を告げたとき、みんな手放しで喜んだという

のぐち・りゅうた◎1997年生まれ。埼玉県川口市出身。10年4月、中津川中学校へ編入(山村留学)。白川部落の里親の元で生活を送る。中津川中学校生徒会長、卓球部部长。埼玉県内の高校受験に向け猛勉強中。実家は父・母・姉・祖父・祖母の6人家族

13歳の決意

人口51万人の大都市、埼玉県川口市で生まれ育った野口龍太さんは、中学1年生の冬、「親元を離れて自分を鍛え直す」決意をする。

学校生活への目的が持てず、勉強に意欲がわかないのが悩みだった。授業中に居眠りして叱られたこともあった。家では何かと家族に甘え、自立できないもどかしさを覚える。

「このまま高校に行ってもろくに勉強せず、駄目になっていくだけだと思った。生き方を変える必要を感じた」

脳裏に浮かんだのは、小学4年生のときに訪れた中津川地区のこと。夏休みを利用して、中津川山村留学実行委員会が企画した「短期留学」に参加。当たり前だと思っていたコンビニも映画館もそこにはなく、あるのは山と川と広い空。衝撃的だった。

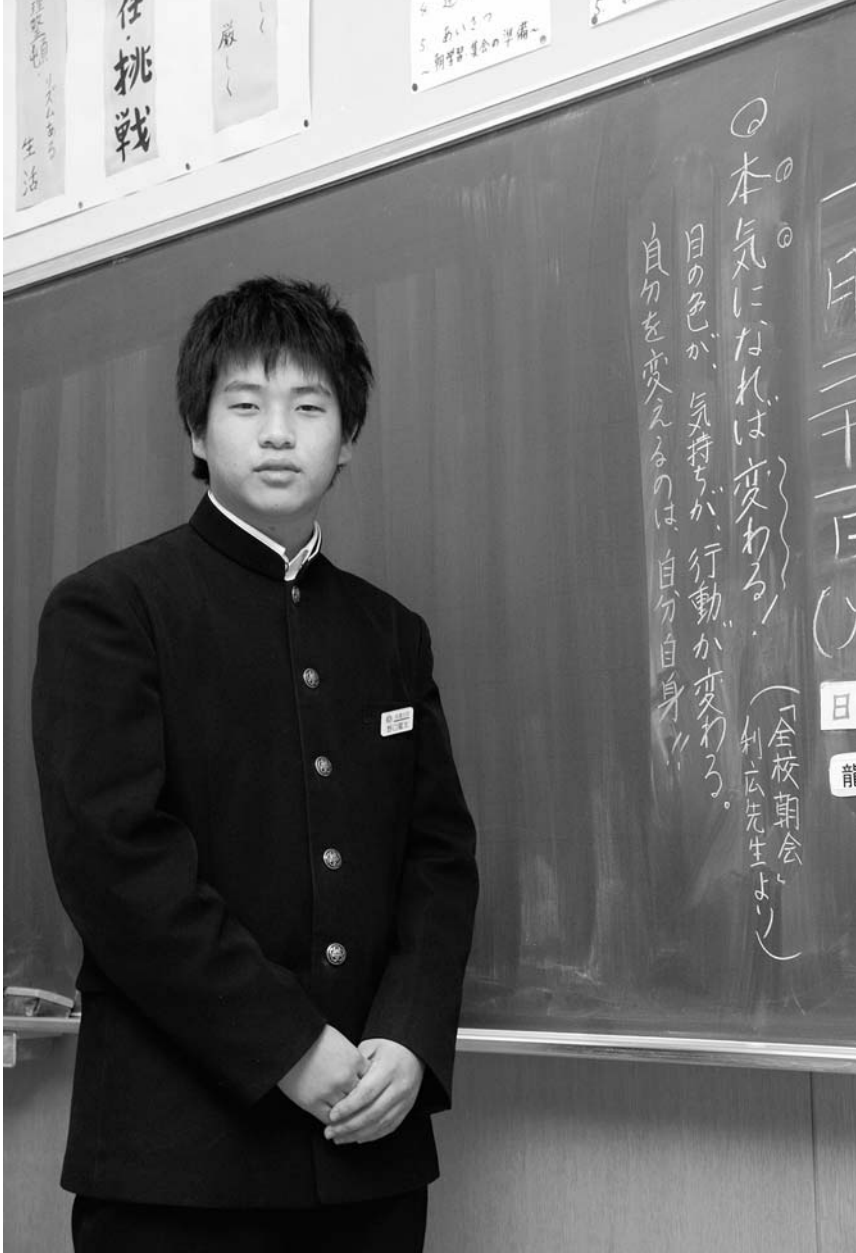
「中津川中学校で1年間勉強してみない?」。同実行委員長鈴木みさん(上原)にかけられた言葉がずっと胸に響き続けた。

「山形で勉強したい」。龍太さんの突然の申し出に両親は驚きながらも「がんばれるな

ら、やってみなさい」と息子の決意を許した。

平成22年4月、龍太さんの中津川での生活が始まる。川口市の学校では約5000人の生徒が学んでいた。片や中津川小中は児童・生徒数を合わせて8人。初対面の日から龍太さんに親しく話しかけてくる児童・生徒たち。「なんでこんなに親しげなんだ」とかつての学校にはなかった雰囲気。時間を食らうが、慣れるのに時間は要らなかった。授業のほとんどが先生とのマンツーマン。居眠りする暇などない。学校生活のなにかもが新鮮で楽しかった。運動会には「縄なし競争」なるものがあり、「世の中にはこんな競技があるのか」と一人で感心した。

1年目は里親として鈴木良則さん宅(白川)でお世話になった。実家にいるときは、テレビや風呂の時間は勝手気ままだった。しかし、お世話になっていく身ではそうはいかない。「鈴木家の生活のサイクルに慣れるまでがとても大変だった」と龍太さんは振り返る。気を遣う生活でストレスが相当に溜まった時期もあったという。しかし、持って生まれた順応性で、休みの



学校では「自分の行動に目標を課すことの大切さを学んだ」と話す野口さん。



学校行事「わらび採り」には父親の野口浩行さんも川口市から足を運び参加。ご両親も折に触れては中津川地区を訪れ、地域の人たちと交流を深めた

中津川で最も好きなのは「中津川の人たち」。交流が楽しくてたまらない。

日には家の人の畑仕事を手伝うなど、中津川の生活が徐々に身に染み付いていった。

留学をさらに二年延長

1月25日、中津川で14歳の誕生日を迎えた日、龍太さんは周囲を驚かす告白をする。「もう一年、中津川で勉強したい」。高校受験を迎える大切な時期をあえて川口市に戻らず中津川を選んだ理由をこう話す。

「今、川口市に帰ると、昔の

自分に戻ってしまうんじゃないかという心配があった。中津川中で勉強した方が、受験のためにもなると考えた」

学校文集『げんりゅう』に寄せては「中津川小中学校の伝統をしっかりと受け継ぎたい。そして、日本一、世界一の学校にしたい」と生徒会長になる意欲を記した。

2年目は、同じ地区の伊藤清一さん宅にお世話になることになった。里親が変わることに抵抗はなかった。地域の人が自分の熱意に応えて受け入れてくれたことがうれしかったし、ちがう環境は自分をもっと成長させると信じた。「大人の人たちと混じっての交流がとても楽しい」と龍

太さんは話す。地区行事の折には、鈴木さん、伊藤さんに連れられて、「酒の席」にジュースで混じった。はじめのころは大人の世界に居心地の悪さを感じたが、「今は楽しくてたまらない」。世間話や酔った大人の陽気な話に思わず声を出して笑ってしまう。川口市では大人といえは、近所の床屋のおじさんしか知らない少年だったのに。

得たのは絆という宝

中津川で築いた絆は龍太さんの一生の宝だ。中津川で最も好きなのは「中津川の人たち」と歯切れよい。勉強以外に学んだもの。それは「周囲の人の大切さ」にほかならない。2年間にわたり山村留学を続けられたのは、家族の支援と、そして里親さんをはじめ、先生、友達、地域の人たちのおかげだと龍太さんは感謝の気持ちを隠さない。

将来の目標は、尊敬する父の後を継ぎ、家業の自転車屋になること。春には埼玉県内の高校へ進学する。中津川の生活が残りわずかとなり、龍太さんは今、約2^キの通学路の雪道を一步一步踏みしめるようにして歩いている。

まちかどニュースは、皆さんの広場です。
地域のできごとやご意見などお気軽にお寄せください。
役場総務企画課総務情報室まで ☎72-2111内線224



ニューイヤースペシャルコンサート

復興を願うクラシックの調べ

1月5日、町民総合センター「あ～す」でニューイヤー
スペシャルコンサートがありました。東日本大震災の被災
地の学校へ楽器を贈ろうと、音楽家の有志が集い開催され
たチャリティー・コンサートです。大阪フィルハーモニー
管弦楽団首席マスターでバイオリン奏者の長原幸太さんや
白鷹町出身のソプラノ歌手・文屋小百合さんら豪華な顔ぶ
れが出演。弦楽合奏とソプラノの共演など多彩な演奏が繰
り広げられ、来場者約380名は一流の音楽を堪能しました。

町議会報告会

意見を集め活力ある議会に



1月17日から31日にかけて、町内9地区の公民館を
会場に町議会報告会がありました。目的は、これま
での議会活動の報告と、町民の皆さんの意見を集め
議会運営に役立てること。このうち手ノ子地区での
報告会には住民21名が出席し、地域内の空き家・空
き地の現状や手ノ子スキー場の活用などの意見が出
ました。議員からは「現場に足を運び、現状をきち
んと把握して対応したい」との答えがありました。

飯豊町の冬を楽しむツアー

ダニエル会長と共に雪を満喫



1月15日と16日にかけて、中津川地区で飯豊町の冬
を楽しむツアーが開かれました。緑のふるさと公社、
町観光協会、白川ダムビジョン推進会議が合同で企
画。いいで“Fun” Clubのダニエル・カール会長な
ど町内外から約40名が参加して、自然観察会やヤハ
ハエロなど多彩な催しが行われました。自然観察会
では、「かんじきトレッキング」があり、参加者は白
い息を吐きながら、新雪の山歩きを楽しみました。



避難者の皆さんをイチゴ狩りに招待

甘いイチゴで元気をつけて

1月21日、アグリメント・なか(渡部要一社長)は、東日本大震災で町内に避難している皆さんに元気をつけてもらおうと、イチゴ狩りに招待しました。親子連れなど約30人が参加し、同社のハウスで実った真っ赤なイチゴを心行くまで味わっていました。参加者の一人、会社員石谷貴弘さん(南相馬市)は、「こんなに甘いイチゴを初めて食べました。子どもたちも大喜びです。飯豊町の人たちの心遣いにとっても感謝しています」と話していました。

奥田シェフによる消費者講演会

安全でおいしい食材とは



1月22日、めざみの里観光物産館で、「アル・ケッチャーノ」オーナーシェフ奥田政行氏を講師に迎え、消費者講演会が開かれました。食材の安全性について学んでもらおうと町が企画し、町内外から約100人が参加しました。奥田氏は、レストランで使っている水や塩、野菜などの事例を挙げ、安全でおいしい食材の見分け方を解説。さらに奥田氏考案の町内産食材を使った料理の試食会もありました。

どんでん平スノーパーク開園

親子で雪遊びを楽しんで!



1月14日、「どんでん平スノーパーク」が開園しました。冬期間のどんでん平ゆり園の有効利用を目的に町観光協会が主体となってこの冬初めての試み。2時間5,000円でのスノーモービル乗り放題のほか、入場料500円で園内に設けられた巨大滑り台や雪合戦競技場などで自由に遊ぶことができ、親子の交流の場としても期待されています。同園は、土日祝日限定で開園。2月26日まで楽しむことができます。



町商工会・ゆりスタンプ 大抽選会イベント (中部地区公民館)



町消防出初式

(あ～す)



第38回南房総市七浦小・第一小交流事業 (飯豊少年自然の家ほか)

直伝おふくろの味



手づくりあらわれ

もち米と大豆だけでできた昔ながらのおやつ

【材料】

◇もち米

◇大豆

100g 1升

【作り方】

- 1 もち米と大豆をそれぞれ一晩水につけておく。
- 2 もち米をついてもちにして、大豆はフードプロセッサーまたはすり鉢で細かく砕く。
- 3 ついたもちをボウルに移して少し冷まし、大豆を入れて手で混ぜ合わせる。
- 4 ③をもちつき器にかけて軽くつく。
- 5 ④をのし板にのせ、のし棒で1〜2ミグらいの薄さになるまで伸ばす。
- 6 ⑤を一日置いてから1センチ角に切り、さらに一週間以上干して、固くなるまで乾燥させる。
- 7 ⑥をフライパンで膨らむまで炒って出来上がり。

田植えの五月に豊作を祈願して食べたものでした



中津川地区
食生活改善推進員
井上智恵子さん

私が子どものころ、田植えは家族総出の大仕事でした。その作業の休憩時間によく食べられていたのが、このあらわれです。新葉の木の葉に包み、田んぼに持参したり、神棚（かみだら）に供えて豊作を祈願したものでした。

材料は、もち米と大豆だけで、調味料は一切使っていません。大豆の力で膨らませた自然食のお菓子です。

料理のポイントは、作り方⑤でできるだけ薄く伸ばすことと、作り方⑥でしっかりと干して固くすることです。そうすることで、しっかりと膨れ上がり、かりつとした仕上がりになります。また、食紅を加えて色づけもできますし、黒砂糖を煮詰めたものをからませれば、かりんとうにもなります。

干したものを冷凍庫で保存しておけば、いつでも食べたいときに手軽に楽しむことができます。



こどもみらい館の予定表
(2月・3月の日程)

- 2月15日(水) 10:30～ あそびの広場
- 16日(木) 10:30～ 避難訓練
- 22日(水) 10:30～ かんがるー広場
- 3月2日(金) 10:30～ ひな祭り
- 7日(水) 10:30～ おはなし広場・避難訓練
- 9日(金) 10:30～ 交通安全指導

ひな祭り ※※※※ (要予約)

3月2日(金) 10:30～
こどもみらい館

お申し込みは2月24日(金)まで



episode

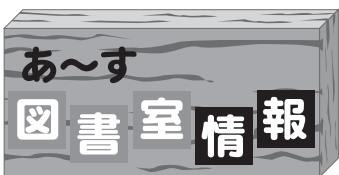
子育て応援
kosodate
ouendan 談

家族の一員としての役割
「お手伝いの習慣を」

子どもがまだ保育園児だったある夏休み。子どもたちに家のお手伝いをしてもらおうと「お約束表」なるものを作ってみました。表には、玄関掃除、洗濯物たたみ、茶碗並べなど、子どもでも出来るお手伝いを列記。これをどこまでやれるか、親子で取り組んでみました。ときには、邪魔になることや「余計なことをして！」なんて思うときもあったけど、「お手伝いしてくれてありがとう」「上手にできたね」「助かったわ」と親は褒めることに専念。子どもは、張り切ってくれました。結果として、大きくなった今も続いているのが風呂掃除と食事の片付け。子どもたちにはお手伝いの習慣が身につきました。励まし褒めながら、子どもの気持ちを大切に、家族の一員として作業を分担して、お手伝いの経験をぜひさせてあげてください。

●こどもみらい館 ☎72-3336

開館日/火曜日から土曜日 休館日/月曜日、日曜日、祝祭日
利用時間/8:30～12:00、13:00～17:00



今月の
おすすめ図書



児童図書

トントンをまちなましよう

あまんきみこ/作 鎌田暢子/絵
ひさかたチャイルド

雪が降り出した夕方、お母さんはあわてて甘酒を作り始めます。トントントンとドアをたたいて、寒い夜にやってきたお客さんはだあれ？



児童図書

心のおくりびと 東日本大震災 復元納棺師

今西乃子/著 浜田一男/写真
金の星社

津波でうばわれた母親の面影を、生前の姿にもどしていく。被災地にボランティアで入った復元納棺師の活動と、遺族の姿を追う感動の記録。



一般図書

「女性の薄毛・抜け毛」
お悩み解消BOOK

浜中聡子/著 主婦と生活社

自分の髪の毛をあきらめなくても大丈夫！ 薄毛・抜け毛の知識から、自分でできる日常のケア、食事の工夫、最新の治療まで、女性頭髪専門医がやさしく解説する。



一般図書

銀婚式

篠田節子/著 毎日新聞社

「男の本分は仕事」それは幸せな人生ですか？ 働くこととは、結婚とは、幸福とは。長い歳月を経て、夫婦がたどり着いた場所とは…。激動する時代の「家族」の物語。

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 毎週月曜日・祝日
- 問合せ先 町民総合センターあ～す図書室 ☎72-3111

100歳おめでとうございます

井上テフさん(高峰)・横澤繁子さん(添川)

後藤町長からお二人に賀詞と祝金を贈呈

1月11日、数え年で100歳を迎えられた井上テフさん(高峰)と横澤繁子さん(添川)のお二人に、町から賀詞と祝金が贈呈されました。後藤町長が各お宅を訪問し、お祝いの言葉とともに直接本人へ手渡しました。

井上テフさんは大正2年3月生まれ。地元で採れた山菜など自然のものを食べて育ったと言います。健康のために、好き嫌いせずしっかり食事を取るよう心がけています。また、「長生きできたのは、(亡くなられた)夫が働き者で、家族を一生懸命支えてくれたから」と、テフさんは感謝の気持ちをいつまでも忘れません。

横澤繁子さんは、大正2年4月生まれ。食事はもちろん、風呂も着替えも日常生活のすべてを自分でこなす、元気なおばあちゃん。ひ孫との会話を楽しみ、新聞をすみずみまでしっかり読むのが日課です。「女学校時代はリレーの選手としてならし、一人で電車を乗り継いで子どもたちの住む県外へ旅したのが大切な思い出」と目を細めます。



井上テフさん(上)と横澤繁子さん(下)。賀詞の贈呈を受けて、ご家族と後藤町長と共に記念写真

山形県ベストアグリ賞受賞

なかつがわ農家民宿組合



後藤町長へ受賞の報告をされた五十嵐京子さん(左・白川)、伊藤信子組合長(中央・岩倉)、伊藤キミ子さん(右・下屋地)

地域の交流人口増加に貢献

このほど、なかつがわ農家民宿組合(伊藤信子組合長)は、地域環境を生かした先駆的な農業者などに贈られる山形県ベストアグリ賞を受賞されました。

同組合には現在12軒が所属し、都会からの修学旅行生や台湾人観光客の受け入れなどを実践。交流人口の増加により、地域の活性化に大きく貢献している点などが評価されました。

昨年11月には農家民宿組合開業5周年記念事業として、歌手八神純子さんを迎えてのチャリティーコンサートを開催。その収益金を東日本大震災の被災地へ赴き、直接届けるなど精力的に活動を展開しています。

伊藤組合長は、「これからも仲間と力を合わせて、お客さまに喜ばれる農家民宿を目指していきます」と受賞の感想を話してくださいました。



(敬称略)

◆第23回読書感想画コンクール山形審査会

◇指定図書小学生低学年の部優良
伊藤人輝(手ノ子小)

◆めざみの里書初め大会

◇町長賞/小川りさ(第二小)

◇教育長賞/佐藤好郁(第一小)

◇めざみの里社長賞
小川みのり(飯豊中)◇町観光協会会長賞
嶋貫舞(手ノ子小)

◇山新賞/土田嘉惟斗(第二小)

◇萩生郵便局長賞/今麻広(手ノ子小)

◇金賞/梅津愛(手ノ子小)、小山航平(第一小)、小山帆夏(添川小)、石原花凜(飯豊中)、佐原詩乃(同)

◇銀賞/星綾乃(手ノ子小)、小関蒼汰(同)、梅津優香(同)、渡部あや乃

(第一小)、高橋空(飯豊中)

◇銅賞/佐原芽依(添川小)、志田貴将(同)、舟山湧斗(同)、嘉藤友紀(第一小)、多田野怜良(同)、山内絃幸(同)、土田嘉哉斗(第二小)、寒河江亮太(手ノ子小)、井上知夏(同)、土田嘉穂(飯豊中)

◇審査員特別賞

船山玲緒奈(さゆり保育園)、小松武一郎(添川)、佐原雄子(同)、船山吉丸(中)、伊藤建(手ノ子)

飯豊山の穴堰をテーマに制作 初作品の紙芝居が最高賞の快挙

山形県自作視聴覚教材コンクール最優秀受賞

PERSON 手塚娃子さん

てづか・あいこ◎町児童生徒相談員。町内小学校を中心に10年以上本の読み聞かせ活動を実践。出羽之国飯豊山白流太鼓保存会の主要メンバーとしても活躍中。萩生在住

先人の偉業を子どもたちに伝えたい

1月21日開催された第60回山形県自作視聴覚教材コンクールで、手塚娃子さんが制作した紙芝居『水のトンネル(飯豊山穴堰のはなし)』が学校教育部門の最優秀を受賞しました。

コンクールの目的は、郷土学習資料として自作された紙芝居やビデオ、コンピューターソフトなど視聴覚教材の作品技術の向上を目指すこと。

手塚さんは、今回が初出品。子どもたちへ本の読み聞かせや紙芝居上演の活動に励んでいる手塚さんは、自分でオリジナルの紙芝居を作ってみたいという意欲に駆られ制作に着手。歴史好きが高じ、山形県指定文化財である「飯豊山の穴堰」をテーマにすることをすぐに思い付きました。しかし、脚本も絵もまったくの初心者。文献を読みあさって脚本を何度も書き直し、紙芝居作りの講座に通うなどして、制作に励みました。構想からおよそ2年をかけ、昨年12月に開かれた置賜



地区の同コンクールへ出品。見事入選を果して、県コンクールへ推薦されました。県コンクールに向けては、脚本と絵を全面的に見直し。縦45cm、幅66cmの特注のダンボール紙を使い、原作より約2倍の大きさの紙芝居に作り直しました。アクリル絵の具で描かれた絵は、温かみのあるタッチが印象的。

「飯豊山の穴堰は、上杉家米沢藩の時代に、高度な土木技術を駆使して造られた米づくりのための用水路。子どもたちには、その大工事を成し遂げた先人たちの偉業を知ってもらいたかった」と手塚さんは制作の意図を話します。

「人と人が向き合い、演じる人の気持ちが直に伝わるのが紙芝居の魅力。大人の方へもこの作品を披露する機会が得られればうれしいです」と話してくださいました。



中津川地区の方の家で大晦日を過ごさせていただきました

「1年近く住んでみて中津川のことをどう思う?」「改善した方が良いと思うことを教えて」と聞かれることがあります。私なりに感じたことを挙げることはできますが、それはあくまで地域がもつ特性で、善し悪しでは判断できません。それを踏まえて、この質問にお答えします。

ひとつ伝えたいことは、この土地には誇るべき資源や文化がたくさんあるということです。ほかの土地では手にしたくても手にできないものがたくさんあります。一方で、それがすべてではなく、世界中を見渡せば、ほかにも素晴らしい資源や文化はたくさんあります。

最後に、これまで協力隊の活動を見守ってくださったみなさまへ。協力隊事業は初めての取り組みであり、成果の上がる活動が十分にできなかった面がありました。それでもご支援とご協力いただいたことに心から感謝しております。残りわずかとなった任期も、最後まで全力で駆け抜けていきます。(細川)

緑のふるさと協力隊

通信

発信⑤ 地域の特性は個性
将来どうありたいか



細川由貴 (浜松市出身)
牧野美咲 (金沢市出身)

ようこそ！ わたしたちの倶楽部に

スポーツ、音楽、芸術、史話、ボランティアなど町内には活動団体がたくさんあります。このコーナーでは、そんな皆さんの活動を紹介していきます。



アルペンスキー

飯豊ジュニアレーシングクラブ

- ◆会長／伊藤博文さん(高峰)
- ◆監督／八島伝内さん(萩生)
- ◆コーチ／クラブOBの皆さん
- ◆メンバー／16名
- ◆練習日時／11月～3月の冬期間。火・木・金曜日18:30～21:00、土・日曜日9:00～12:00

●飯豊ジュニアレーシングクラブへの入会・体験などのお問い合わせは、お近くのクラブ関係者まで

- ◆練習場所／手ノ子スキー場ほか
- ◆募集対象／小学生から高校生までの男女。低学年の初心者も歓迎。町外在住の方も可
- ◆クラブのPR
100分の1秒を競うアルペン競技。「スピードの怖さを克服し、思いどおりの滑りができたときの達成感がスキーの魅力」と伊藤博文会長は話します。飯豊ジュニアレーシングクラブは、全国を舞台に活躍する選手をこれまで多く輩出してきました。「アスリートの育成には、あいさつやマナーなど基本的なことも大切。本番でのプレッシャーに負けない精神力のある選手を育てたい」と伊藤会長は表情を引き締めます。



伊藤さんにとってスキーとは…
私たちの生きがい。地元手ノ子スキー場をずっと大切にしていきたい

伊藤博文さん

現在の日時、月曜の午前3時。ぎりぎりまで先延ばしにした仕事を朝まだ明けやらぬ暗闇の中で机にへばり付いてやっている。実は昔から朝型だった。まず寝て、すつきりとした頭でとりかかる。上手く行けばこれほど効果的な方法はない。ただ、これには決定的な弱点がある。まず、仕事量に応じた時間に起きられるかどうかである。寝過ぎたらアウトだ。熟練すれば熟睡した後でパッチリ目を覚ますことができる。しかし本当のところ仕事は寝る前に終わっているのが望ましい。

大体において、この豪雪に問題がある。積もる時は静かに音も無く降り続く。日曜日の朝、雪下ろしをした。気が付くとこの家でも除雪作業に必死である。七十代、八十代も重要な戦力である。六十代はこの辺りでは若い衆の内に入る。この事態に、どれ程やり残した仕事に追われても、背丈ほどの雪を屋根の上に乗せたまままで書斎に閉じこもるほどの心臓はない。そして雪下ろしには疲れ直しの「あがり酒」がつき物である。

半日だけ雪下ろしに付き合った長男がしんどの表情をしながら「こればかりは何にもならないな」とボツリと言った。「山の雪が春の田んぼの水になり、川になり海に注ぐ」と答えると「そんな悠長な場合じゃないよ」との返事が返ってきた。

豪雪対策の体制強化や地域力の向上で課題解決を図ろうかと思案しながら屋根から見渡すと、いつの間にか、月は東に日は西に沈んで、家々の窓には夕餉の明りが灯っていた。

屋敷林に囲まれた民家が飯豊の自慢の風景である。かやぶきの屋根のあの急勾配であれば雪に強いはずだ。家の周りには堀が巡らされ「堅堀」などもあって雪を溶かした。現代では雪の無い都会と同じような造りの家が多く、雪を克服するところまでは至っていない。電熱や温水、高床式などの方法があるものの費用との兼ね合いがある。ゴミや廃材、ペレットなどを燃やした熱で雪を融かす方法はないものだろうか。除雪機の普及だけは昔と違う点である。ただ、わが家には除雪機はない。

「雪下ろし」

連載 随想 町長の思つて歩き

32

後藤 幸平

Karte ⑨

脳卒中予防10カ条 その8

アルコール 控えめは薬 過ぎれば毒

health column



このコーナーでは、健康に関する身近なテーマを取り上げ、町民の皆さんが今すぐできる健康づくりを提言します。

酒は百薬の長？

昔から、「酒は百薬の長」という言葉がありますが、これは本当でしょうか？

少量のお酒は、気分をリフレッシュしたりコミュニケーションを円滑にするなどの良い面もありますが、どんなに楽しいお酒でも、飲みすぎは体によくありません。適量を超える多量の飲酒は、血圧を上昇させる原因となり、その結果脳出血を発症しやすくなります。

また、多量の飲酒でもっとも怖いのは、肝臓などの臓器や、肉体的みならず精神にまでも影響を及ぼし、アルコール性肝炎やアルコール依存症になって、脳卒中とは別の意味で生活そのものを危険にさらす可能性も高いことです。

脳卒中のリスクを増やさないためには、アルコールは適量を守りたしなむ程度が、いろんな意味で安全だといえます。

脳卒中と飲酒の関係

独立行政法人国立がん研究センターが40〜59歳の男性約2万人を対象に11年間の追跡調査を実施し、飲酒と脳卒中発症との関連を調べたデータがあります。

下のグラフから、アルコールを「飲まない」人よりも「時々飲む」の方が若干ですが低くなっていることがわかります。

■アルコールの適量

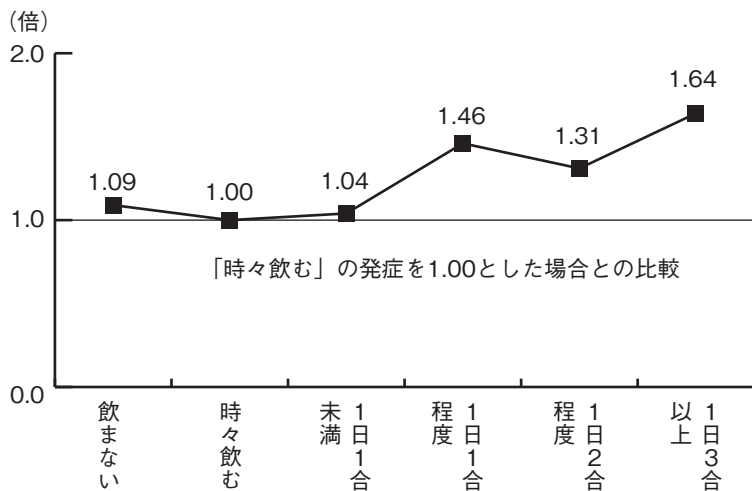
日本酒	180ml (1合)
ビール	500ml (中ビン1本)
ワイン	240ml (グラス2杯)
ウィスキー ブランデー	60ml (ダブル1杯)
焼酎 (25度)	90ml (0.5合)



ることがわかります。これは、アルコールの作用で善玉コレステロールの血中濃度が上がることや、血液が固まりにくくなることで、脳梗塞のリスクが下がるからです。しかし、アルコールには血圧上昇作用があり、飲酒量が増えると血圧が高くなり、血管が破れてしまうリスクが高まります。「1日1合以上」の人は「1日1合未満」飲む人に比べて、脳卒中の発症のリスクが高くなるのがわかります。脳卒中の予防には、1日平均1合未満に抑えることが大切になります。

また、脳卒中だけでなく体を健康に保つためにも、休肝日を設けることも必要です。

■飲酒と全脳卒中の発症との関係



2月は生活習慣病予防月間

今年のスローガンは、

少酒にて 延びる寿命 減るメタボ

生活習慣病は、毎日の生活の積み重ねが引き起こす病気です。この機会に自分自身の生活を振り返り、家族みんな健康について話し合ってみましょう。特にアルコールについては「休肝日をつくる」などのルールを決めてみることをおすすめします。

飯豊町役場

電話 0238-72-2111
FAX 72-3827
ホームページ www.town.iide.yamagata.jp
Eメール iide-info@town.iide.yamagata.jp



「あ～す」	☎72-3111	社会福祉協議会	☎72-3353	東部地区公民館	☎74-2447
町健康福祉課	☎86-2233	ひめさゆり荘	☎74-2011	西部地区公民館	☎75-2111
介護老人保健施設	☎86-2117	スポーツセンター	☎72-3086	中津川地区公民館	☎77-2020
国民健康保険診療所	☎72-2300	中部地区公民館	☎72-2126	飯豊駐在所	☎72-2245
附属中津川診療所	☎77-2330	白樺地区公民館	☎72-2242	中津川駐在所	☎77-2110

**みんなあつまれ～！
わくわくぐりぐら広場**

- ◆日時／2月26日(日) 10:30～11:30
- ◆会場／こどもみらい館
- ◆内容
 - お話を聞こう！絵本・エプロンシアターなどの読み聞かせ
 - つくって遊ぼう！ひなまつりにぴったりの工作をします
- ◆参加費／無料
- ◆対象／おおむね3歳から小学3年生前後の児童とその保護者
- ◆申込締切／2月22日(水)
- ◆申込方法／下記まで電話で申し込み
- ◆問合せ先／町民総合センター「あ～す」☎72-3111

**被災者支援コンサート
「音楽の贈り物」のご案内**

- 山形県企業局では、山形交響楽団出演のコンサートを開催します。
- ◆日時／3月4日(日) 15:00開演
 - ◆会場／米沢市市民文化会館
 - ◆申込方法／往復はがきで申し込みください（1枚に2名まで申込可能）。応募多数の場合は抽選となります
 - ◇往信面の表
〒990-0041 山形市緑町1-9-30
山形交響楽団コンサート係あて
 - ◇往信面の裏／申込者の住所、氏名、電話番号、鑑賞人数を記入
 - ※託児所の利用を希望する場合は「託児所希望」と明記し、利用する児童・乳幼児の氏名、年齢を記入
 - ◇返信面の表
申込者の住所、氏名を記入
 - ◆申込期限／2月27日(月)
 - ◆申込・問合せ先
山形県企業局総務企画課
☎023-630-2735

**屋根の雪下ろし作業などに
ご注意ください！**

町内外におきまして屋根の雪下ろし中の事故、自宅周りの除雪中の事故が相次いでいます。いずれも高齢者の方単独での無理な作業が原因となっているようです。町では除雪ヘルパーの派遣事業などを行っておりますので、一人暮らし高齢者の方、高齢者のみ世帯の方などで、雪でお困りの際は自分で作業をする前に、町健康福祉課や民生委員・部落長さんなどに相談いただき、町の助成事業を活用ください。

- ◆問合せ先／町健康福祉課福祉室
☎86-2233

**山形県交通安全県民運動
「新たな運動名」募集**

これまでの“交通安全「山形路いつも心に思いやり」県民運動”に代わる新しい名称を募集します。

- ◆応募テーマ／高齢者の交通事故を防止し、県民一人ひとりが交通安全意識やマナーを高め、主体的に交通安全に積極的に取り組むのにふさわしい親しみのある運動名称
- ◆応募方法／はがき、ファックス、電子メールのいずれかで応募。作品と併せ、作品の趣旨と簡単な説明・応募者の郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記
- ◆その他／○作品は、応募1枚(回)に1点とします ○1人で何点でも応募できます ○作品は自作、未発表のものに限ります
- ◆応募締切／3月2日(金)
- ◆応募・問合せ先
山形県交通安全対策協議会事務局
☎023-630-2492 FAX023-625-8186
E-mail ykurashi@pref.yamagata.jp

**町内事業者の皆さんへ
被災者支援雇用創出事業説明会**

町では、震災で被災された方や震災以降に失業された方への雇用の場の提供を目指し、町内事業所を対象にした雇用創出事業説明会を開催します。ぜひ参加ください。

- ◆日時／2月22日(水)13:30～15:00
- ◆会場／役場3階委員会室
- ◆申込方法／2月20日(月)まで下記まで電話で申し込みください
- ◆申込・問合せ先
役場産業振興課プロジェクト推進室
☎72-2111内線252

**ほのぼのサロン
実施地区を募集します**

ほのぼのサロンは高齢者の方を対象に、部落などの公民館を会場に楽しく健康づくりを支援する事業です。申し込みの際し、次の要件を満たしていただく必要があります。

- ◆申込要件
 - ①会場の公民館の借上（予約）に部落などとして協力していただけること
 - ②65歳以上の方が常時10～15人程度参加できること
 - ③参加者への事務連絡などで部落などからの協力をお願いできること
- ※公民館使用料、電気料などは実施地区の負担となります
- ※複数の地区との共同開催も可能です
- ◆年会費／5,000円（茶菓代など）
- ◆実施期間／4月～3月までの週1回（年間40回程度）
- ◆会場／申し込みの部落などの公民館
- ◆申込締切／3月16日(金)
- ◆申込・問合せ先
町地域包括支援センター☎86-2233

こせきのほだ
戸籍の窓

(1月届け出分)

ご結婚おめでとうございます

住所	氏名
(上原 渡部 良さん 南陽市 高橋 悠理恵さん 小白川 高橋 竜太さん 長井市 加藤 美貴子さん)	

お誕生おめでとうございます

住所	氏名	ご両親
萩生 梅津 侑那ちゃん	(鷹 矢子 広)	
添川 梅津 冬真くん	(大 佑美 真)	
添川 船山 龍尋くん	(稔 章子 美奈)	

心からおくやみ申し上げます

住所	氏名	年齢
松原 新野 榮三さん		83
小白川 上野 細谷 康雄さん		73
添川 梅津 峯村 京子さん		88
添川 梅津 宇津木 儀一さん		91
椿 辻 後藤 司さん		78
添川 東山 横澤 公榮さん		70
小白川 上郷 山口 辰藏さん		84

※この欄に掲載を望まない場合は届出の際にお申し出てください。

人の動き

1月分 () 内は対前月比			
世帯数	2,377 (3)	転入	17
人口	男 3,897 (1)	転出	9
	女 4,140 (3)	出生	3
計	8,037 (4)	死亡	7

ネットで確定申告を!

- ◆平成23年分の確定申告
 - 所得税/3月15日(木)まで
 - 贈与税/3月15日(木)まで
 - 消費税および地方消費税(個人事業者)/4月2日(月)まで
- ※土・日曜日、祝日において、申告書は郵送や税務署の時間外収受箱へ投函により提出することができます
- ◆e-Taxでの所得税申告のメリット
 - 最高4,000円の税額控除(19年分から23年分の申告で1回のみ)
 - 国税庁のホームページから電子申告
 - 添付書類の提出省略
 - 還付金がスピーディー
- ※e-Taxの利用に際しては、開始届出書の提出、電子証明書の取得、ICカードリーダーライタの購入など事前の準備が必要です

◆問合せ先/長井税務署 ☎84-1810

スノーモービル

レディースキャンプのご案内

- 女性の皆さん、ウィンタースポーツであるスノーモービルを楽しんでみませんか。男性の方も参加できます。
- ◆日時/3月4日(日) 10:00~15:00
 - ◆場所/どんでん平ゆり園駐車場
 - ◆内容
 - ◇初級講習会(13:00~15:00)
 - 受付/12:30まで
 - 定員/7名
 - 参加費/3,500円
 - ◇乗車体験・バナナボート牽引(有料)
 - ◇すべり台など雪遊び
 - ◇あったかい飲食売店など
 - ◆問合せ先/町観光協会 ☎86-2411

**おきたまLOVEワゴン
参加者大募集**

- 置賜3市5町の若者がプロデュースする婚活プロジェクトの第4弾を開催します。今回は平日プランです。
- ◆日時/3月5日(月) 10:30~16:00
 - ◆場所/米沢市内
 - ◆募集/20~40歳までの独身男女 各16名(合計32名)
 - ◆参加費/男性4,000円 女性2,000円
 - ※お友達と2人でお申し込みいただくと上記金額から500円引き
 - ◆内容/ボーリングや食事、トークを楽しむながらの出会いの場を提供
 - ◆申込方法/下記のホームページから申し込みください
<http://www.okikou.or.jp/d/>
 - ◆申込・問合せ先
置賜広域行政事務組合総務課企画係
☎0238-23-3246

**ふれあい看護体験
参加者を募集します**

- 病院や福祉施設で看護の仕事を経験してみませんか。
- ◆期間/5月6日(日)~12日(日)
 - ◆体験施設/県内病院、福祉施設など
 - ◆対象/高校生以上で初参加の方
 - ◆応募方法
 - ①高校生の方は学校を通じて申し込み
 - ②高校生以外の方は下記の内容をはがきに明記し申し込み
住所・氏名・性別・年齢・職業または学校名・電話番号・施設名(第3希望まで)・白衣サイズ(S・M・L)
 - ◆申込期限/2月24日(金)
 - ◆申込・問合せ先
山形県看護協会 ☎023-685-8033

**東北公益文科大学学外発表会
「公益大ウィーク2012」**

- ◆期間/2月28日(火)~3月4日(日)
- プログラムの時間は下記までお問い合わせください
- ◆会場/遊学館(山形市)
- ◆内容/○研究活動や学生活動などの成果を公開するパネル展示 ○学生による報告会(3月4日のみ)
- ◆問合せ先/東北公益文科大学地域共創センター ☎0234-41-1065



◆1月23日に審査会が開かれました山形県市町村広報コンクール写真の部(一枚写真)において、弊紙12月号の表紙が特選に選ばれました。町直営のオペレーター後藤仁さんと長岡利英さんの横顔を写した一枚です。協力いただいたお二人に感謝申し上げますとともに、今冬の豪雪で除雪作業にあたるオペレーターの皆さんの懸命な作業に敬意を表さずにはいられません。(横山)



文化財は、郷土の歴史、民俗、信仰、自然を物語る町の宝。継承し守り続けている人たちがいるから輝く価値がある。



写真/雪の重みにも耐える堅牢な山門。冬場の立地条件を考慮し、しっかりした木材を使い、巧みな建築技術が施されている

Treasures in Iide Town

17

selection

大福寺山門

昭和62年度町指定有形文化財（建造）指定

Interview

守り続ける人たち



大福寺住職

梅津光雄さん
(椿)

今年山門の屋根のふき替えを計画

平成14年に大福寺では開山500年の供養が行われました。山門は、開山当時に建てられたものであり、510年以上経つ歴史的な建造物であります。境内にある建造物の中で薬師堂に次いで古いものだと伝え聞いております。

山門の特徴は、かやぶき屋根であることと、石の上に柱が立てられていることです。置賜地方には数少ない造りで珍しいものです。

かやぶきゆえにカラスなどの鳥についばまれていたずらされることや、年数の経過で傷んできたことなどが管理上の悩みです。

今年、護寺会の皆さまにより屋根のふき替えが計画されています。山門はお寺の顔であり、今後も皆さんと力を合わせ守っていかねばならないと思っています。

解説

大福寺山門

椿の大福寺（山号・稻荷山のち龍松山）は竹菴林虎が開山となり、川西町大塚の常光院の末寺として建立された。

文亀2年（1502）、薬師堂通夜の時、前庭の池から白龍が現れ、禅師に仏法の奥義を授け、松の梢から昇天したという縁起がある。

この山門は、柱には風化に強い五葉松を用い、調和のとれた蓑束（みのづか）の形状蓑股（かえるまた）を設置し、大斗肘木（ひじき）で屋根の荷重を柱に伝達し、豪雪に耐える対策を講じた室町時代後期の珍しい建築物である。

昭和62年3月、町の有形文化財（建造物）に指定された。